国内外の火山災害事例における被害拡大要因と 課題の分析

—教訓を防災対策に生かすために—

河田泰貴

本研究は、火山災害の事例を体系的に収集・整理し、被害拡大要因や教訓を明らかにすることで、防災対策の課題を解明することを目的とした。国内外の計 18 事例を対象に、噴火の経過、被害実態、防災体制を分析した結果、被害規模には火山活動の特性や地域ごとの防災対策の有無が大きく影響することが判明した。国内事例では迅速な避難体制や情報伝達の遅れが課題として浮上し、海外事例では国際的な協力体制や事前準備の充実度が被害軽減に重要であることが示された。さらに、災害の規模や種類の特徴を比較することで、火山災害における制度・技術・住民教育が一体となった総合的防災対策の必要性を提言した。本研究の成果は、各地域における防災体制の構築や火山災害リスクの軽減に寄与し、火山周辺地域の住民や行政が一体となった防災体制づくりへの具体的な指針を提供するものであり、火山との共存を目指した社会づくりに貢献することが期待される。